

# 中期経営計画の進捗と次期中期経営計画の方向性

2020年11月25日  
SOMPOホールディングス株式会社



# 目次

## 1. 中期経営計画の進捗

中期経営計画の進捗	3
(参考)株主還元実績	4
新型コロナウイルス感染拡大の影響【再掲】	5
レジリエンス強化に向けた中期経営計画の事業別進捗	6
国内損保事業のキーポイント	7
海外保険事業のキーポイント	8,9
国内生保事業のキーポイント	10
介護事業のキーポイント	11
新たな価値創造に向けたPalantir社への出資	12

## 2. 次期中期経営計画の方向性

現中計の振り返り	14
外部環境認識	15
次期中計の方向性	16
SOMPOにおける経済価値と社会価値	17
基本3戦略の概要	18
リアルデータプラットフォーム構想	19
リアルデータプラットフォーム活用例	20
基本戦略を支える経営フレームワーク	21

## 3. 参考資料

国内損保事業の計画進捗	23
海外保険事業の計画進捗	24
国内生保事業の計画進捗	25
介護・ヘルスケア事業の計画進捗	26
経営数値目標等	27
株価(トータル・シェアホルダー・リターン)	28
グループ資産運用	29
財務健全性: ESR(99.5%VaR)	30
実質自己資本・リスク量のブレークダウン	31
業績ハイライト(2020年度中間期)【再掲】	32
2020年度中間決算概況(連結)【再掲】	33
2020年度通期業績予想(連結)【再掲】	34
2020年度通期予想修正のポイント【再掲】	35

# 1. 中期経営計画の進捗

## 2. 次期中期経営計画の方向性

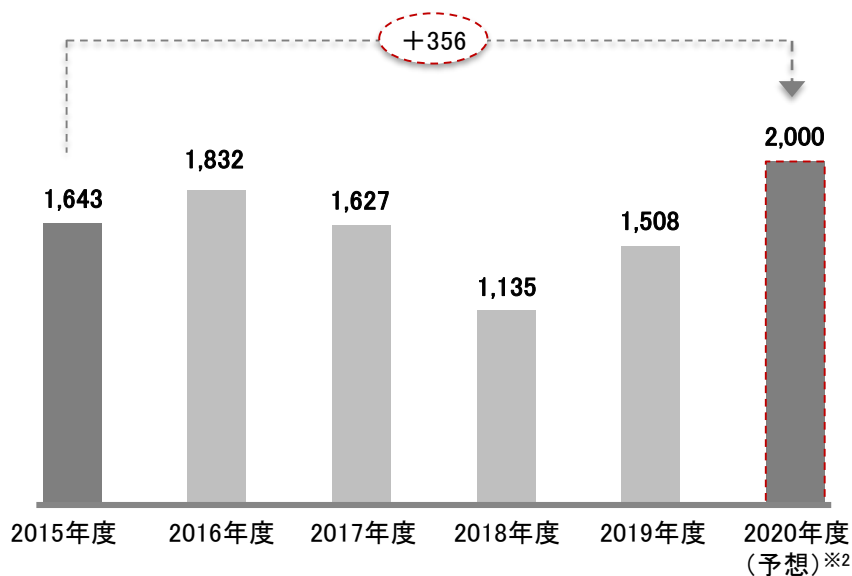
## 3. 参考資料

# 中期経営計画の進捗

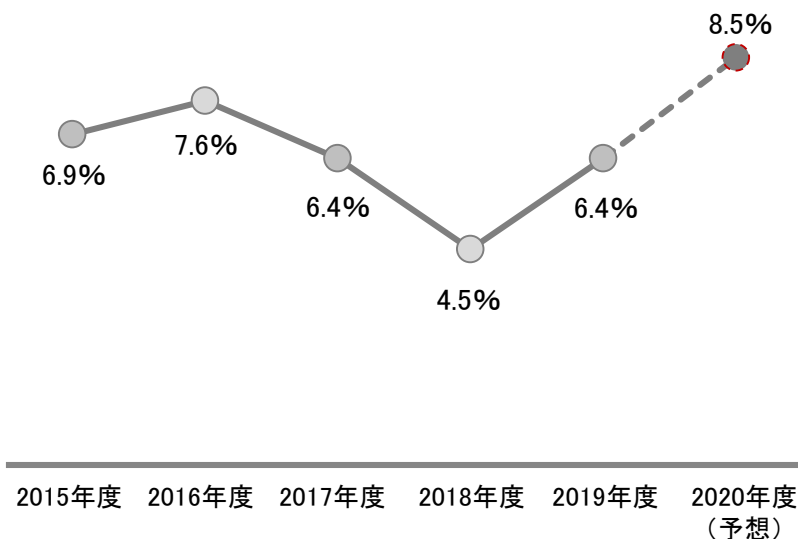
- ◆ 新型コロナウイルス影響はあったものの、現中計最終年度の修正連結利益は2,000億円を見込む
- ◆ ファundamentalsの中期的な底堅さを踏まえ、2020年度増配幅を+10円から+20円に上方修正

## 修正連結利益※1

(億円)



## 修正連結ROE※1



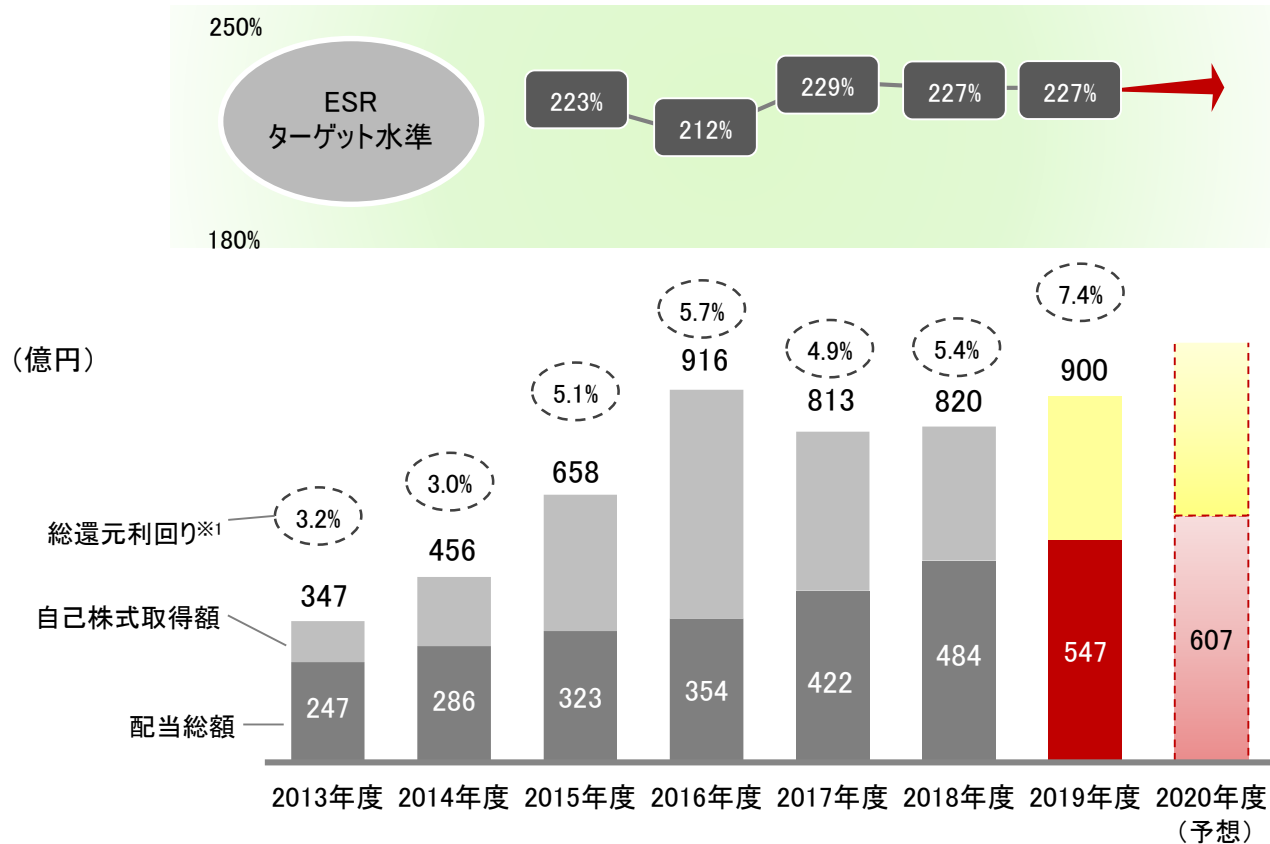
※1 修正連結利益、修正連結ROEの定義はP27ご参照  
(参考)修正連結純資産(期首・期末平均残高)は、

2015年度: 23,783億円、2016年度: 24,033億円、2017年度: 25,539億円、2018年度: 25,306億円、2019年度: 23,732億円、2020年度(予想): 23,874億円

※2 修正連結利益の2020年度中間実績は950億円

# (参考)株主還元実績

## 強固な財務健全性(ESR)と株主還元ヒストリー



### ＜株主還元方針＞

- 財務健全性や業績等を勘案し、魅力ある株主還元を目指す
- 総還元性向は50%～100%を目標水準とし、大型M&A有無や資本水準等を総合的に考慮し、株主還元額を機動的に決定する
- 増配の継続を基本方針とする  
※配当と自己株式取得のバランスは株価水準や配当利回りなどを踏まえて毎期決定

2020年5月に開示した  
一株当たり配当金160円を  
170円(前年比+20円)に上方修正

※1 総還元利回り=(配当総額+自己株式取得額)/年度末株式時価総額

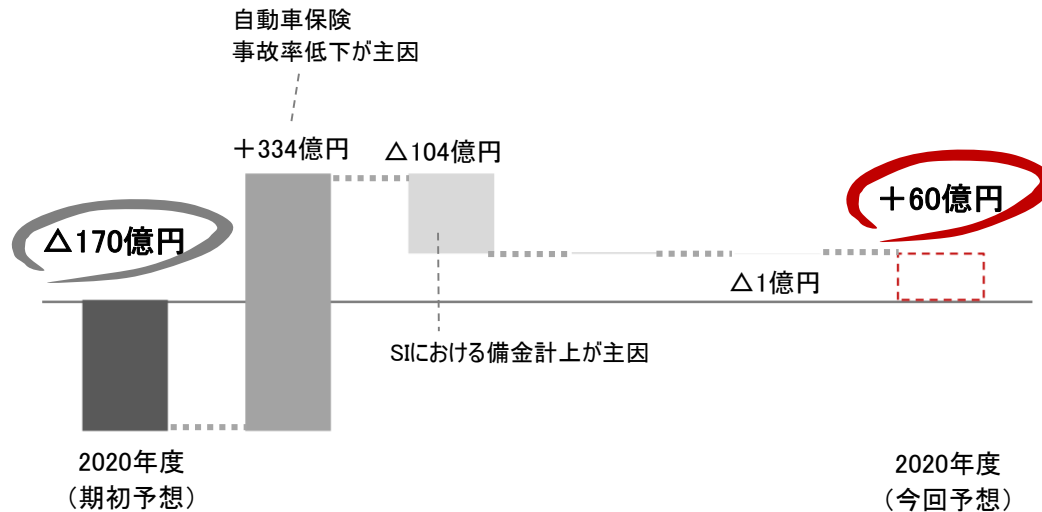
※2 総還元性向=(配当総額+自己株式取得額)/修正連結利益

# 新型コロナウイルス感染拡大の影響

- ◆ 2020年度通期修正連結利益(予想)における新型コロナウイルスの影響額は+60億円程度を見込む
- ◆ なお、2020年度中間期修正連結利益への影響額は+30億円程度

## 2020年度通期修正連結利益影響の変動要因※1

①国内損保 ②海外保険 ③国内生保 ④介護事業



		①国内損保	②海外保険	③国内生保	④介護事業	修正連結利益
期初 予想	影響額①※2	Δ54億円	Δ86億円	Δ15億円	Δ14億円	Δ170億円
	影響額②※3	0~Δ300億円※4				
今回予想		+280億円	Δ190億円	Δ15億円	Δ15億円	+60億円

※1 概算数値

※2 期初予想に織り込んだ影響(発現蓋然性が高く、合理的に算出可能な影響額)

※3 期初予想に織り込んでいない追加的な影響(想定シナリオ下で発現する可能性のあるプラス/マイナス影響をネットした影響額)

※4 国内損保事業における自動車保険事故率低下影響(+300億円~+440億円)、  
海外保険事業の保険金支払い(Δ120億円~Δ240億円)など

## (参考)2020年度中間期修正連結利益への影響※1



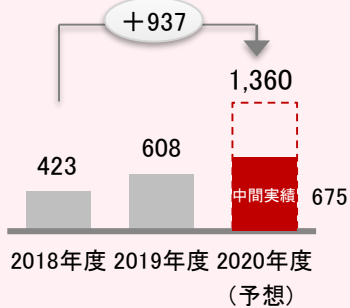
# レジリエンス強化に向けた中期経営計画の事業別進捗

◆ コロナ影響は事業ごとに差があるものの、グループのファンダメンタルズは堅調

## 事業別修正利益と主要KPI

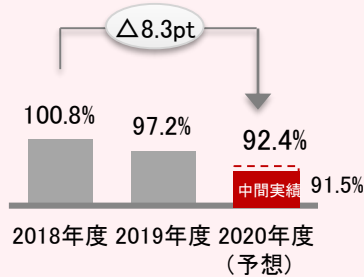
### 修正利益 (億円)

増税影響などあったものの、事故の減少などもあり、増益見込み



### コンパインド・レシオ(E/I)※1

適正プライシングおよび生産性向上を通じた人員適正化を加速

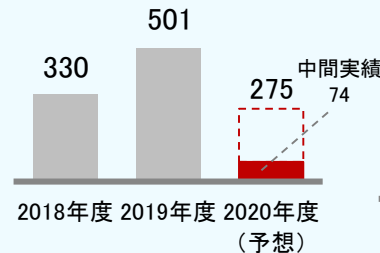


※1 損保ジャパン(除く自賠責・家計地震) E/I損害率+正味事業費率

国内損保 海外保険

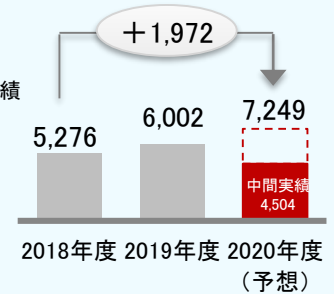
### 修正利益 (億円)

コロナ影響や自然災害影響などもあり、減益



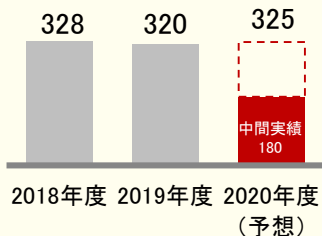
### 収入保険料(億円)

スペシャルティ保険中心にグローバルベースで保険料を拡大



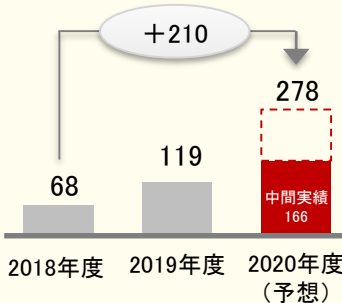
### 修正利益 (億円)

保有契約を着実に積み上げ、コロナ禍においても安定した収益



### 保有年間換算保険料(億円)※2

Insurhealthを推進し保有契約拡大を目指す

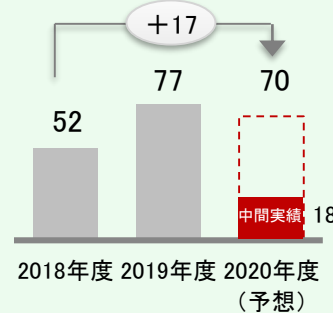


国内生保 介護・ヘルスケア等

※2 Insurhealth商品

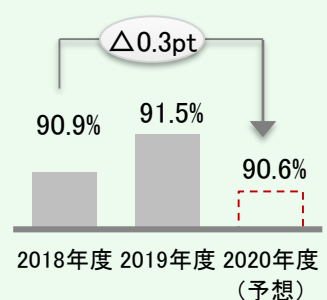
### 修正利益 (億円)

コロナ影響の対策費用のインパクトあるも、収益基盤は強固



### 入居率

コロナ影響あり



# 国内損保事業のキーポイント

◆ 保険商品の収益性向上および効率化の徹底に加え、お客さまのニーズ変化を捉えた質的進化を推進

## 収益構造改革

### プライシング適正化

収益性を重視したプライシング戦略

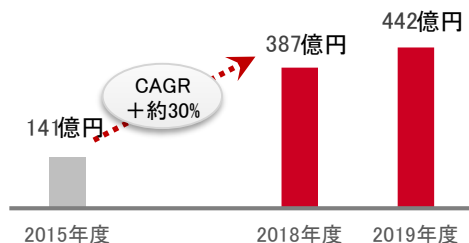
商品改定効果(フル発現時)<sup>※1</sup>

- 自動車保険: 20年1月  
+約200億円
- 火災保険: 19年10月、21年1月  
+約300億円

### トップライン拡大

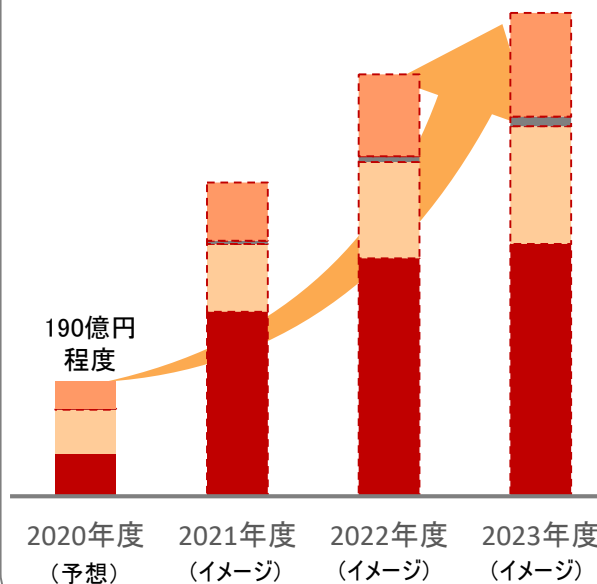
SME戦略商品は年率+約30%程度で成長  
マーケティング機能強化を通じた販売戦略を加速

SME戦略商品の実績推移<sup>※3</sup>



### 取組効果<sup>※5</sup>

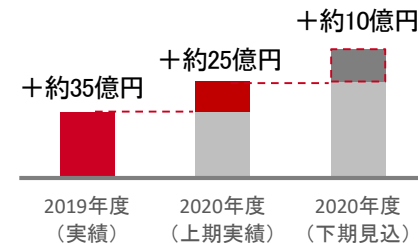
- プライシング
- アンダーライティング
- トップライン
- 生産性向上・その他



### アンダーライティング

企業契約の料率・引受条件適正化、事故防止支援

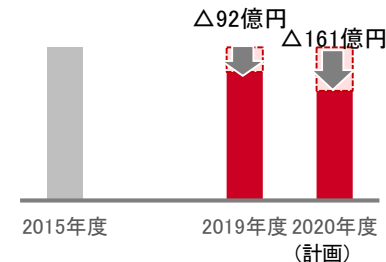
高損契約の収支適正化取組効果<sup>※2</sup>



### 生産性向上

デジタル活用、スマートワークのインフラ整備  
要員構造改革、人事制度改定等

人件費削減額<sup>※4</sup>



※1 種目別の商品改定による効果(フル発現時)の修正利益への貢献額  
 ※2 損害率の高い企業向け契約における修正利益改善額のみなし効果

※3 中堅中小企業向け戦略商品の成績保険料実績

※4 税引前

※5 収益構造改革における各取組による2019年度実績比での修正利益効果の見込額



# 海外保険事業のキーポイント①

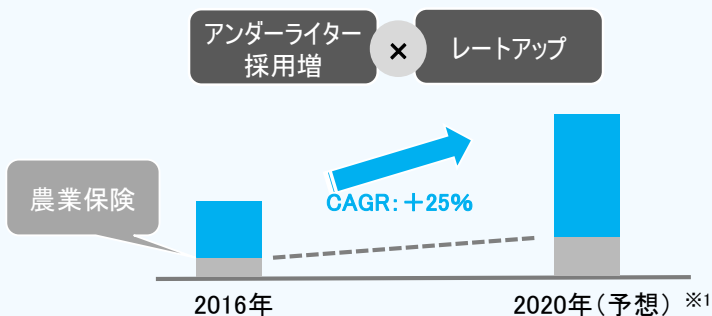
- ◆ 着実なトップライン成長と規律ある引受により、事業基盤を拡大
- ◆ 中期的には、保有の拡大やボルトオンM&A等により成長を加速

## ①着実なトップラインの成長

高成長

- 優秀なアンダーライター・チームの採用や業界平均を上回るレートアップによるトップライン成長
- 農業保険を含めた種目間での分散も進展

### SIのトップライン(元受保険料)推移



※1 Diversified社寄与分を仮定した場合

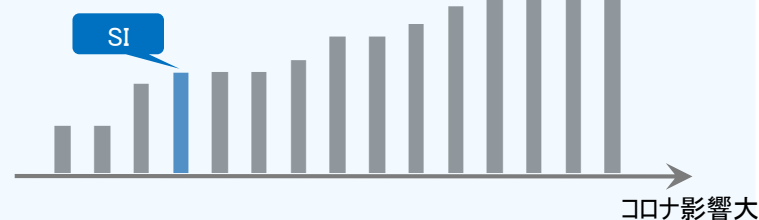
## ②規律ある引受

厳格な引受基準

- 約款の精査、除外条項の設定
- リスクに応じた適切なリミット管理

### コロナ影響(米国・バミューダピア比較) ※2

自己資本対比で見た  
コロナ影響は同業他社比  
抑制されている



※2 1-9月各社開示データ(自己資本対比)

## SIの業績拡大の方向性

第一段階

アンダーライター採用

年20%増

(2017~2019年度の  
アンダーライター採用数※3)

第二段階

レートアップ

+25%超

(2020年度の  
レートアップ率)

中期的方向性

レートアップ

種目・地理的分散

保有拡大

ボルトオンM&A

規律ある引受

プラットフォーム戦略

# 海外保険事業のキーポイント②

- ◆ 米Diversified社を買収、グローバルなAgriSompプラットフォーム展開を加速
- ◆ マーケットリーダーとして、農業保険普及を通じた気候変動リスクへの対応手段を提供

## ①AgriSompプラットフォームの進展

展開加速

- SOMPOのライセンス網とSIのノウハウを統合
- AgriSompにより、農業保険を全世界に展開
- 農業保険普及により、気候変動リスクへ対応

### AgriSompプラットフォーム



## ②米農業保険事業の規模拡大・地域分散の進展

トップクラス

- 米Diversified Crop Insurance社を買収
- シェアは農業保険の業界トップクラスに躍進
- 規模拡大・地域分散により収益性は改善へ

### 米Diversified社の買収 ※1

#### マーケットシェア

1 A社	17.5%
SI + Diversified	17.5%
2 B社	15.0%
3 C社	13.5%
4 Diversified	10.5%
5 D社	8.7%
6 SI	7.0%

米国での地域分散進展  
シェアは業界トップクラスに

<米中西部主体>

<米南部主体>

### SIの米農業保険事業 ※2

トップライン

2,000億円+  
(2019年度グロス保険料)

中期的方向性

大幅増収

収益性

約90%  
(コンバインド・レシオ、過去5年平均)

改善+安定化

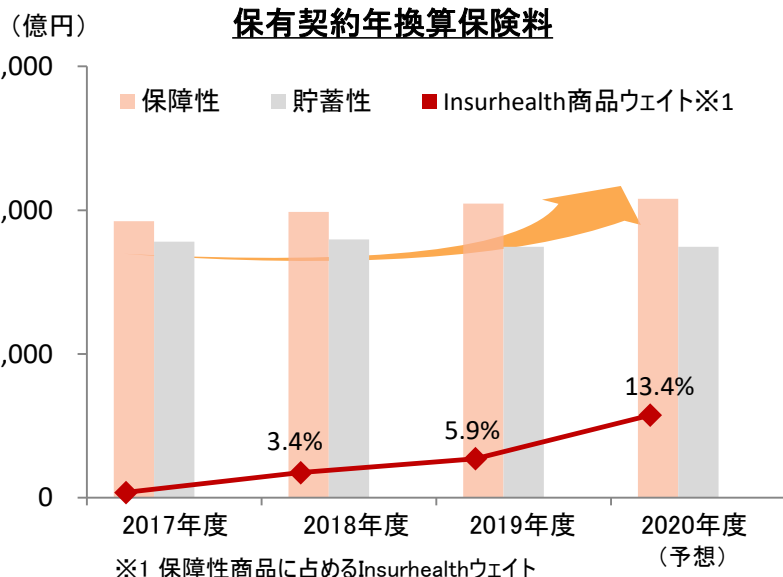
※1: 2020年10-12月期完了予定

※2 二社合算

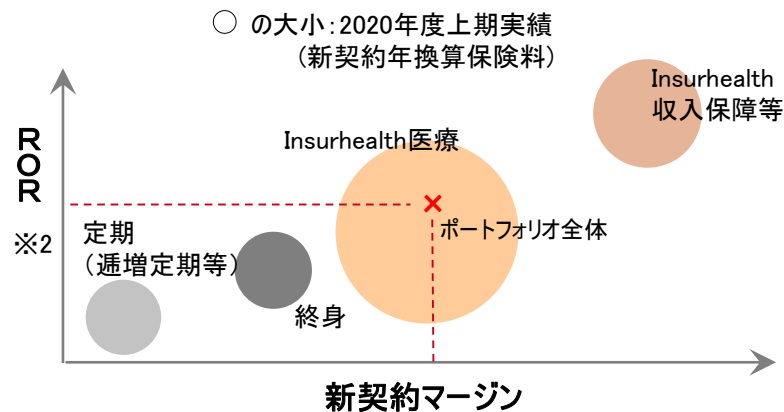
# 国内生保事業のキーポイント

- ◆ Insurhealth新商品投入により、収益性が高い保障系商品（医療・収入保障等）を中心に保有を拡大
- ◆ お客さまの健康をサポートする商品を拡大することで、高い収益性と健康寿命の延伸への貢献を目指す

Insurhealthによる成長



**(参考)商品別収益性イメージ**



※2 ROR: 確実性等価利益現価 / ヘッジ不能リスク

ニューノーマルへの対応

**現中計**

低金利の長期化

With/Afterコロナ (非対面化)

- 保障系商品中心の販売戦略
- 金利リスク量に応じた評価係数設定
- 資産の長期化 (超長期債の購入)
- 非対面募集の取扱開始 (2020年5月)
- 全店舗へのTV会議システム導入、リモートによる研修

**次期中計の方向性**

- 低金利の長期化を見据えた商品戦略 (保障系商品中心等)
- 資産の更なる長期化 (超長期債の購入拡大)
- 完全オンライン募集 (ペーパーレス) の全商品への拡大
- ネット専用商品の拡大
- リアルとデジタルのハイブリッド営業の加速
- 場所に捉われない働き方の実現

# 介護事業のキープポイント

- ◆ デジタルテクノロジーを活用した生産性向上、新たな収益機会の獲得により、利益の拡大と安定化を図る
- ◆ リアルデータの活用や健康寿命延伸への取り組みにより、社会課題解決にチャレンジする

## 収益向上への取り組み

### 既存事業における生産性向上

ヒトとICTの融合を推進し、生産性の向上および処遇改善を通じた介護人材の需給ギャップの解消を目指し、単体収益性をさらに向上

#### 生産性向上

- ・デジタル技術活用
- ・業務プロセス見直し

#### 人材確保

- ・管理職制度・教育の再構築
- ・処遇の改善

### 新たな収益機会の創出

SOMPOケアのノウハウを最大限に活用した介護周辺の新規事業展開やセレクトティブなM&Aによる規模の拡大を検討、収益機会を拡大する

#### ボルトオン型のM&A

- ・東京建物シニアライフサポート社の買収  
(2020年12月完了予定)

#### ビジネスプロセスサポートサービス

- ・2020年4月開始
- ・介護事業者向けに人材・物品購買・インフラなどを支援

## 社会課題解決への取り組み

### 健康寿命延伸への取り組み

超高齢化社会に備え、認知症関連サービス等の展開により健康寿命延伸にチャレンジ

#### SOMPOスマイル・エイジングプログラム

- ・2020年7月開始
- ・高齢者の生活習慣改善を通じて認知機能低下を予防

- 「運動・栄養指導・認知機能訓練・社会参加」のサービスを提供
- 認知症ではない方やMCI(軽度認知障害)と診断された方、認知症の方まで幅広い方々を対象



### 介護現場でのリアルデータ活用

SOMPOケアの持つ様々なリアルデータを統合・分析し、入居者の健康状態向上や生産的な施設運営に役立てる



# 新たな価値創造に向けたPalantir社への出資

◆ データ解析に強みを持つ米国Palantir社に出資、リアルデータプラットフォーム構想の基盤を獲得

## Palantir社への出資

出資時期

2020年6月

出資金額

5億ドル

Palantir社の強み

ビッグデータ統合・解析

### Palantir社概要

2004年、PayPal創業者のピーター・ティール氏、アレックス・カープ氏らが米国で創業、世界25カ国以上でエンタープライズ・データプラットフォームを構築する技術とサービスを提供するソフトウェア企業

### 出資の目的

- 提携強化によるデータ解析能力の活用
- SOMPOが持つ大量のリアルデータを高度なデータ解析により有効活用
- 新たなソリューションやモデルを開発・外販

データ解析

リアルデータ

 Palantir

  
SOMPO  
ホールディングス

新たなソリューション・モデル開発

1. 中期経営計画の進捗

2. 次期中期経営計画の方向性

3. 参考資料

# 現中計の振り返り

- ◆ 中計当初の課題に対して、一定の成果が結実
- ◆ 一方、自然災害激甚化やコロナ影響など外部環境変化もあり、次期中計に向けた課題も浮き彫りに

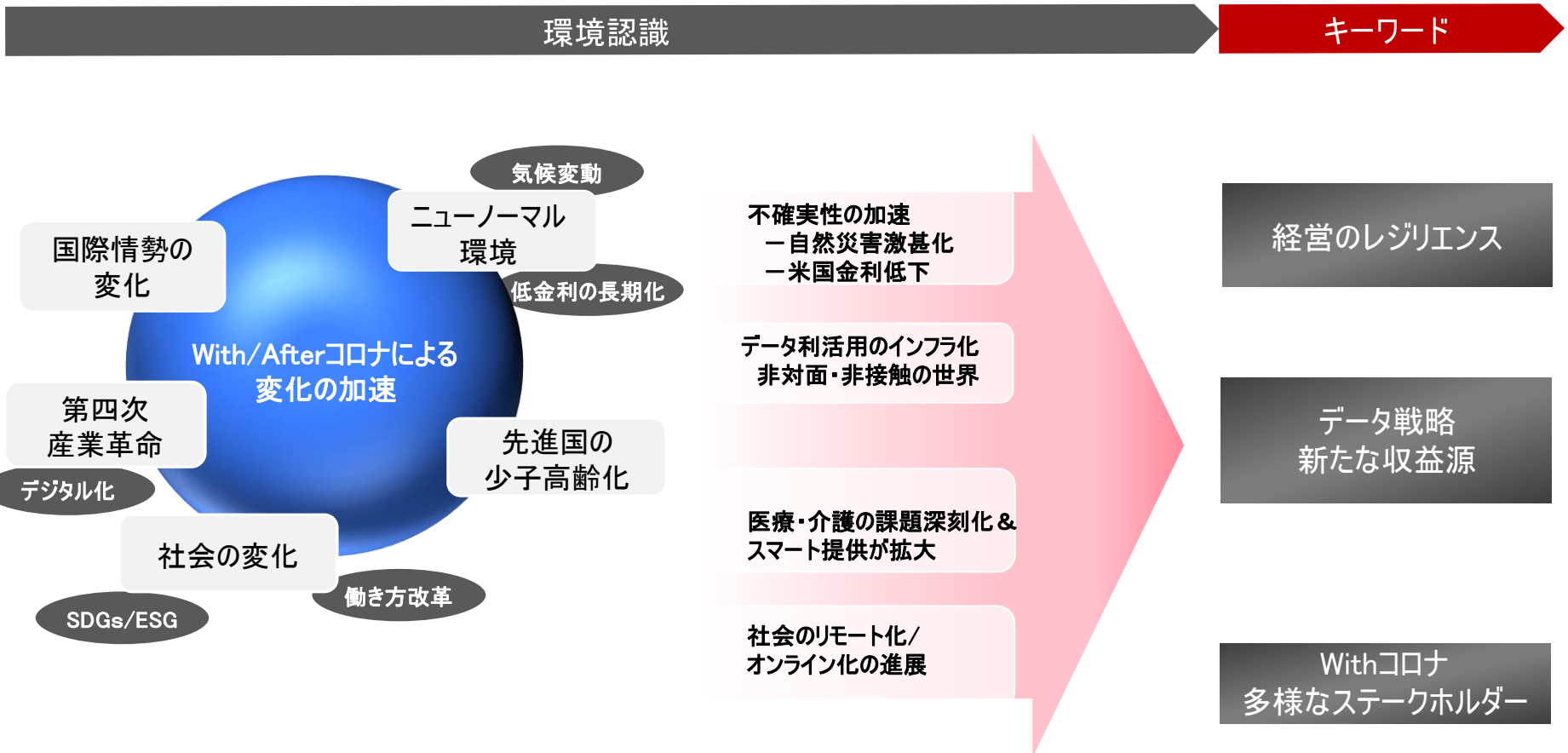
## 現中計の振り返り

	現中期経営計画における主な成果	次期中計に向けた課題
グループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 海外M&amp;Aによるポートフォリオ変革</li> <li>✓ SOMPO笑顔倶楽部立ち上げ</li> <li>✓ デジタル3極体制、Palantir社出資</li> <li>✓ テーマパーク・データ戦略の基盤獲得</li> <li>✓ 事業オーナー制・グループCxO制導入、指名委員会等設置会社移行等、ガバナンス態勢強化</li> </ul>	保険の進化・保険の枠組みを超えたサービス提供 （付加価値追求） リアルデータプラットフォーム
国内損保	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 料率適正化およびデジタル活用、要員最適化などによる収益性向上</li> <li>✓ 健全性強化（政策株削減・再保険戦略）</li> </ul>	企業文化の変革
海外保険	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ M&amp;A推進体制の整備</li> <li>✓ SIのグローバルプラットフォーム化</li> </ul>	規模と分散 ～収益性・成長性に加え、安定性～
国内生保	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「Insurhealth」商品の開発</li> <li>✓ リンククロス等による顧客接点強化</li> </ul>	
介護・ヘルスケア等	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 品質・生産性向上とともに、入居率を改善</li> <li>✓ 処遇改善による人材の維持確保</li> </ul>	社会課題の解決

# 外部環境認識

- ◆ 自然災害の激甚化など、絶えず変化してきた外部環境は、コロナにより急激に変化
- ◆ 激しい環境変化のスピードに合わせて、SOMPOのトランスフォーメーションを加速

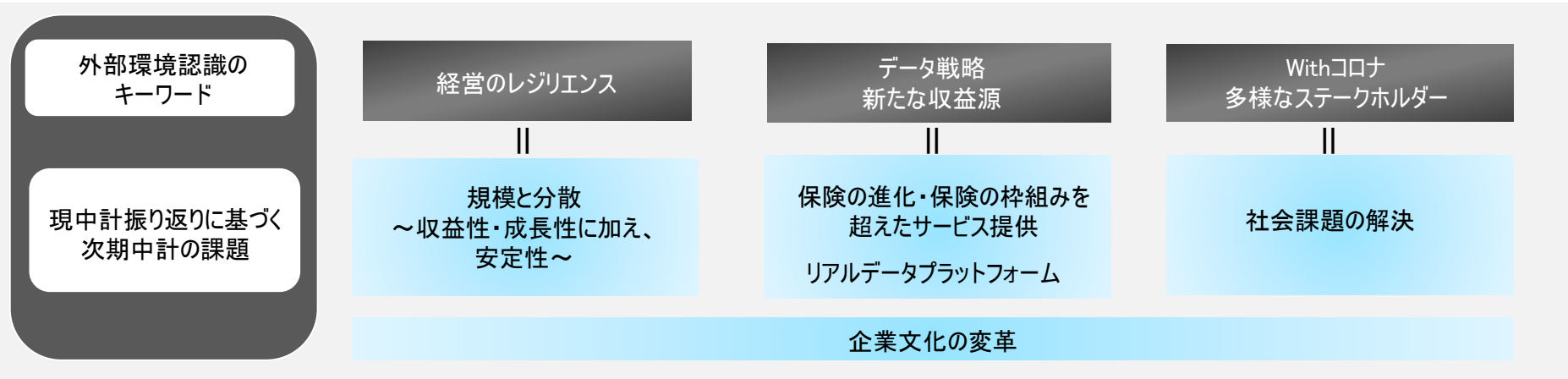
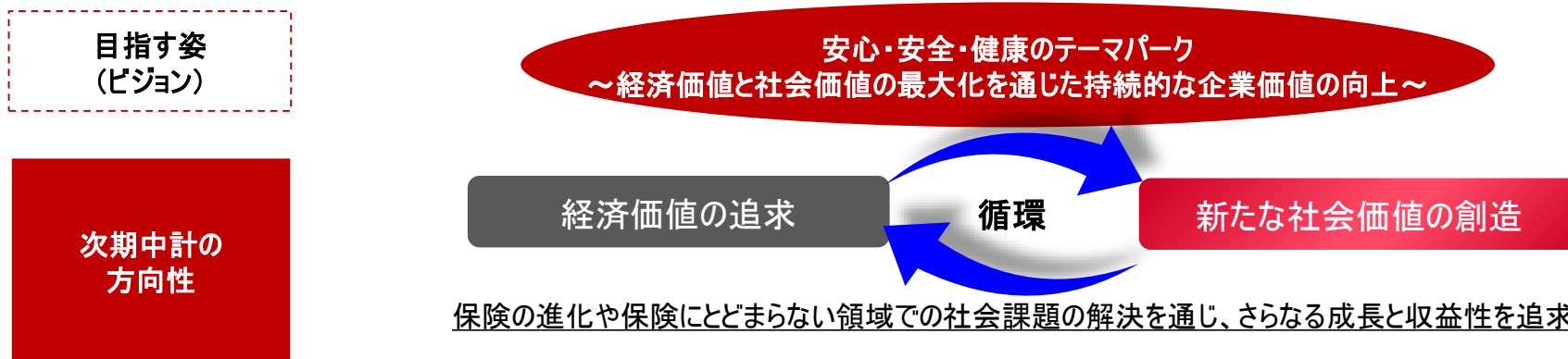
## 外部環境認識





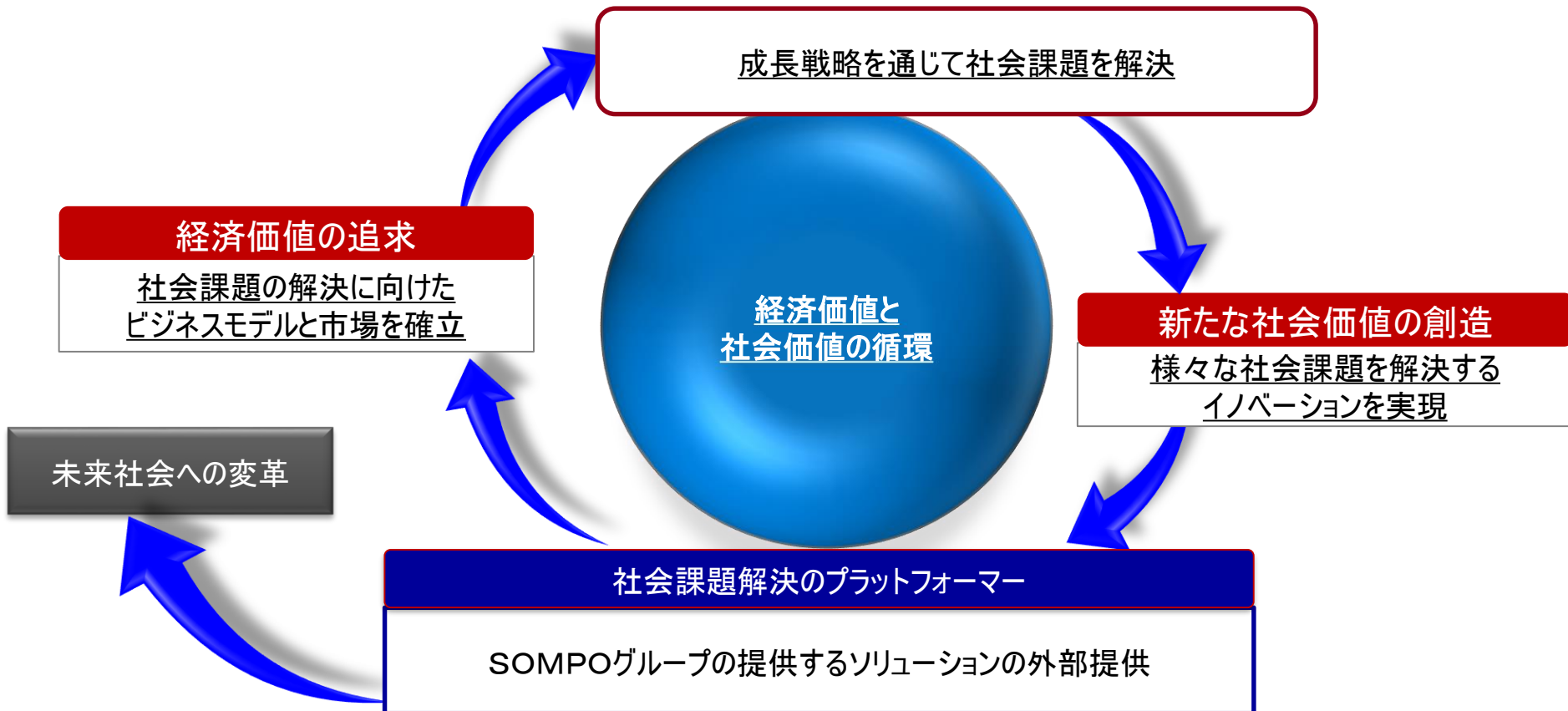
# 次期中計の方向性

- ◆ 目指す安心・安全・健康のテーマパークの構築は不変（次期中計期間：2021年度～2023年度）
- ◆ 既存事業を中心としたさらなる成長と収益性の追求に加え、保険にとどまらない事業領域での社会課題の解決を通じ、経済価値と社会価値の最大化を通じた持続的な企業価値向上を目指す



# SOMPOにおける経済価値と社会価値

- ◆ SOMPOの安心・安全・健康のテーマパークが、社会課題解決に向けたプラットフォームとなり、様々なパートナーを支え、協働することで、未来社会へのトランスフォーメーションの実現に貢献



# 基本3戦略の概要

- ◆ 国内のさらなる収益構造改革と海外事業の時流を捉えた利益成長が、グループの規模と分散を加速
- ◆ リアルデータプラットフォームを活用し、新たな顧客価値の創造を目指す
- ◆ 生産性を向上し、働き方改革を推進することで目指す姿の実現を下支え

## 基本戦略①

### 規模と分散

～レジリエンスの獲得～

既存事業を中心にさらなる成長と収益性を追求

<主要な取り組み>

コンバインドレシオの改善

収益構造改革

料率適正化

事業費削減

国内損保

ハード化を踏まえた高い利益成長

レートアップ

地域分散

規律あるM&A

海外保険

## 基本戦略②

### 新たな顧客価値の創造

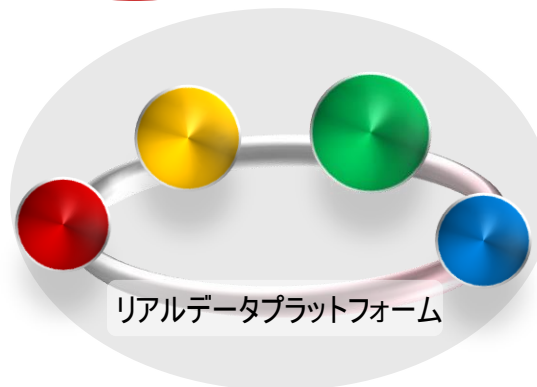
～テーマパークの具現化～

リアルデータプラットフォームなどを通じた  
新たな顧客価値を創造

社会課題の解決

×

マネタイズ



「SOMPOの目指すべき人材集団の姿」を実現するための  
人事制度・働き方の抜本的見直し

### 働き方改革

～グループの進化を支える  
企業文化変革～

飛躍的な生産性向上

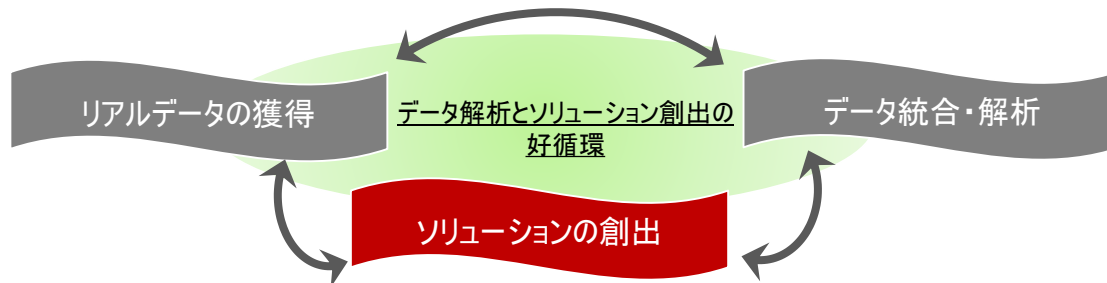
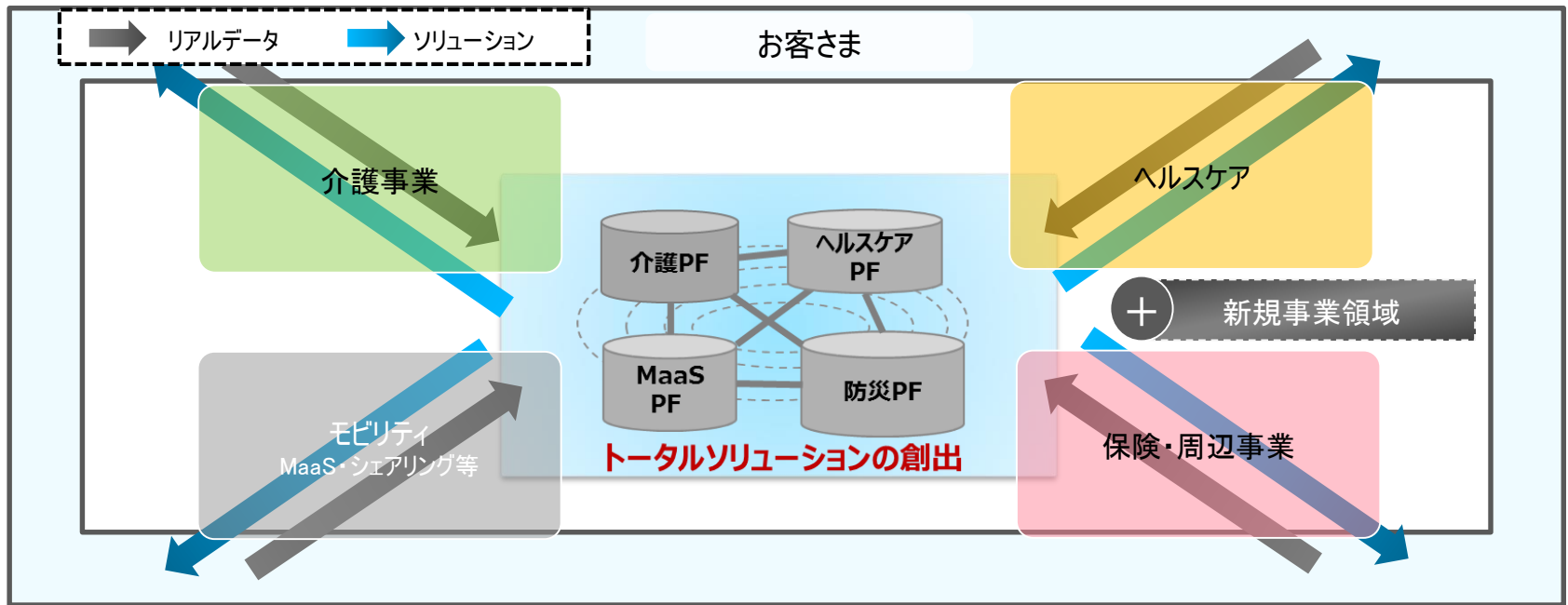
## 基本戦略③

一人ひとりがパーパス・  
ハピネスを実感

# リアルデータプラットフォーム構想

◆ Palantir社のテクノロジーと当社のリアルデータを最大限活用し、新たなソリューションの創出を目指す

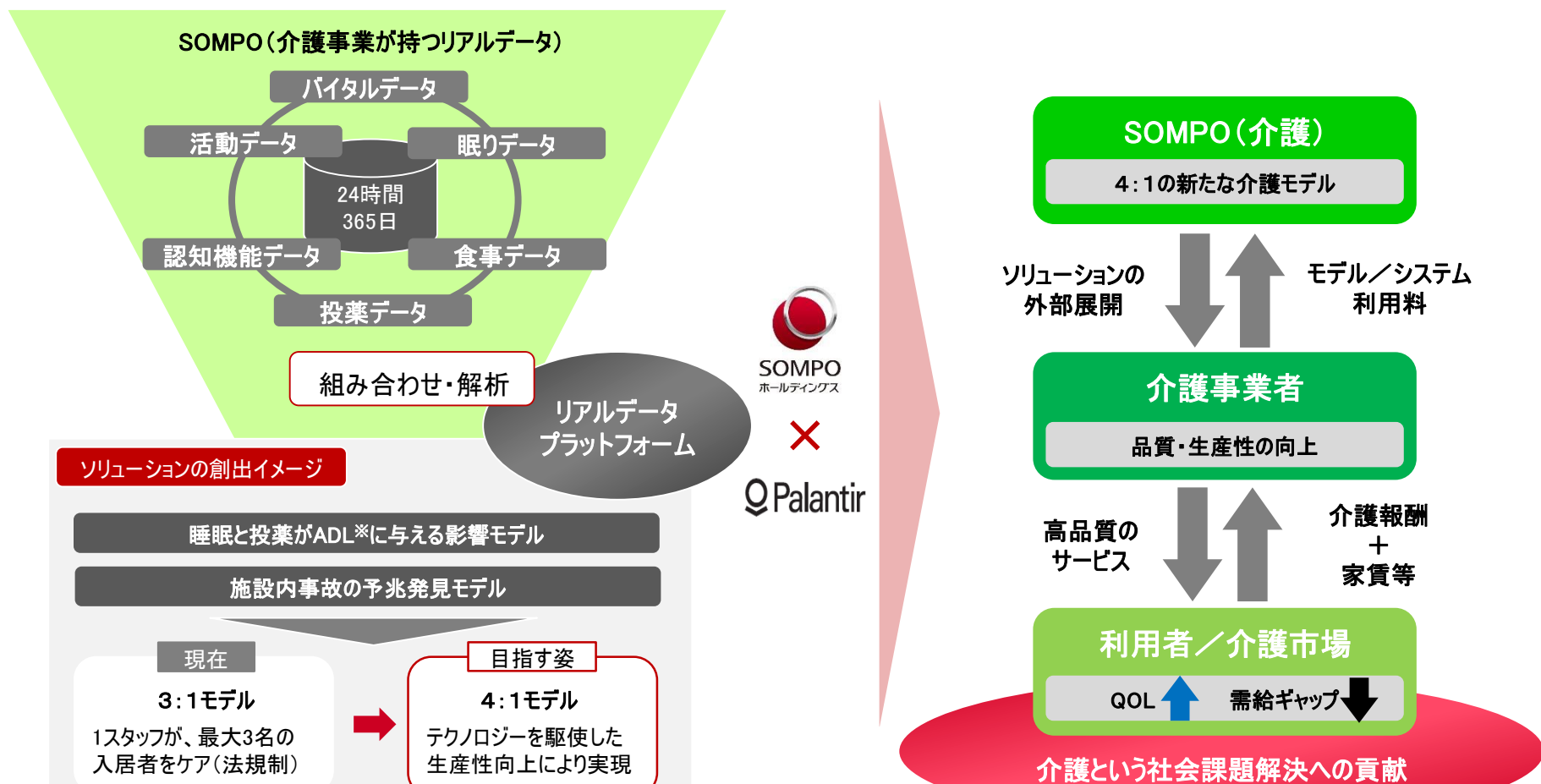
## 新たな顧客価値提供に向けたリアルデータプラットフォーム構想



# リアルデータプラットフォーム活用例

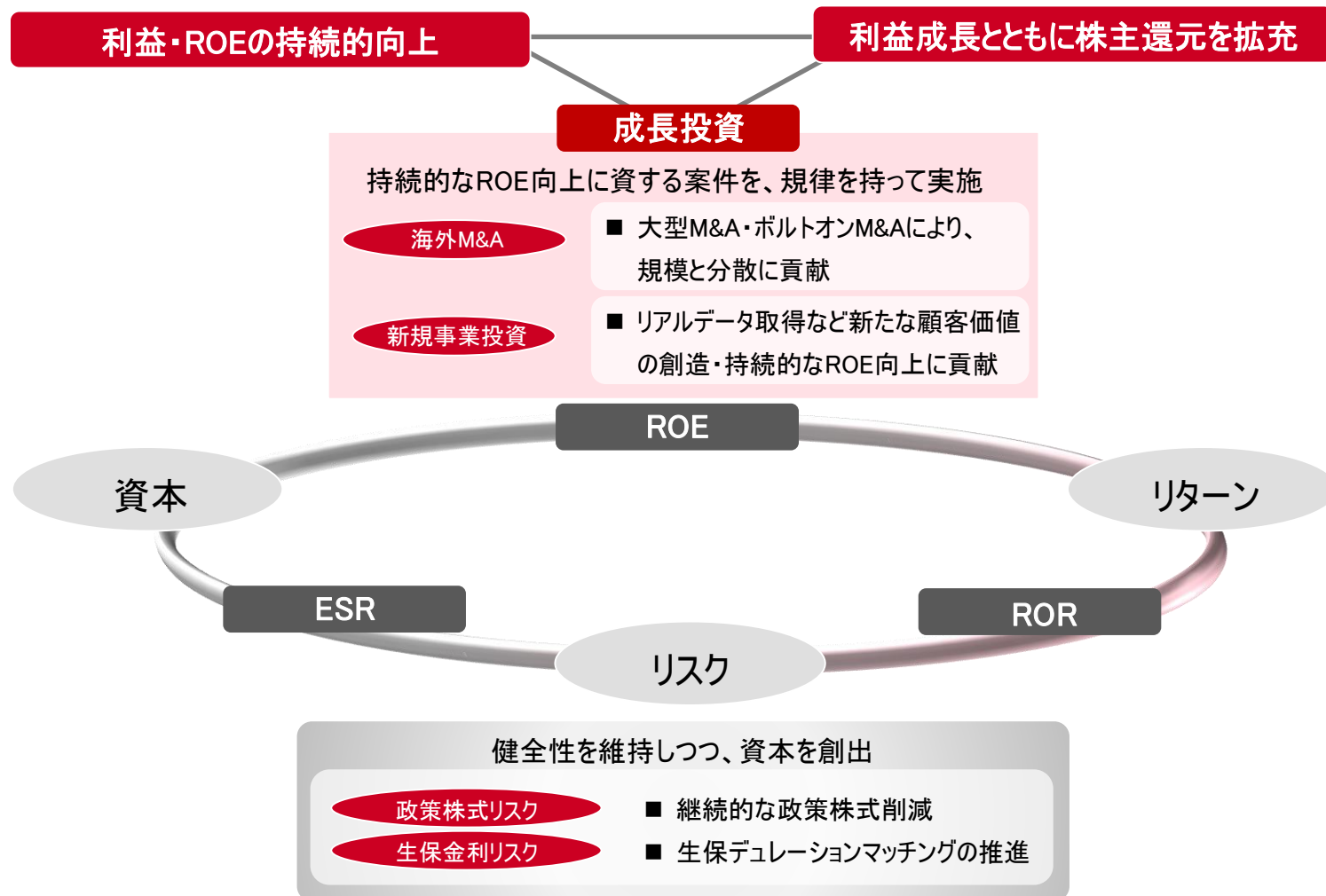
- ◆ 介護に関わる大量データを解析、生み出されたソリューションにより、生産性向上など事業の高度化に取り組む
- ◆ 外部展開を通じて日本の介護業界にソリューションを提供、マネタイズとともに社会価値の創造を目指す

## 介護事業におけるリアルデータプラットフォーム活用イメージ



# 基本戦略を支える経営フレームワーク

- ◆ 適切な資本政策の実行とともに資本負荷の高いリスクを適切にコントロールし、資本を創出
- ◆ 規律ある成長投資を通じ、ROE・利益の持続的向上の実現とともに株主還元の拡充を目指す



1. 中期経営計画の進捗

2. 次期中期経営計画の方向性

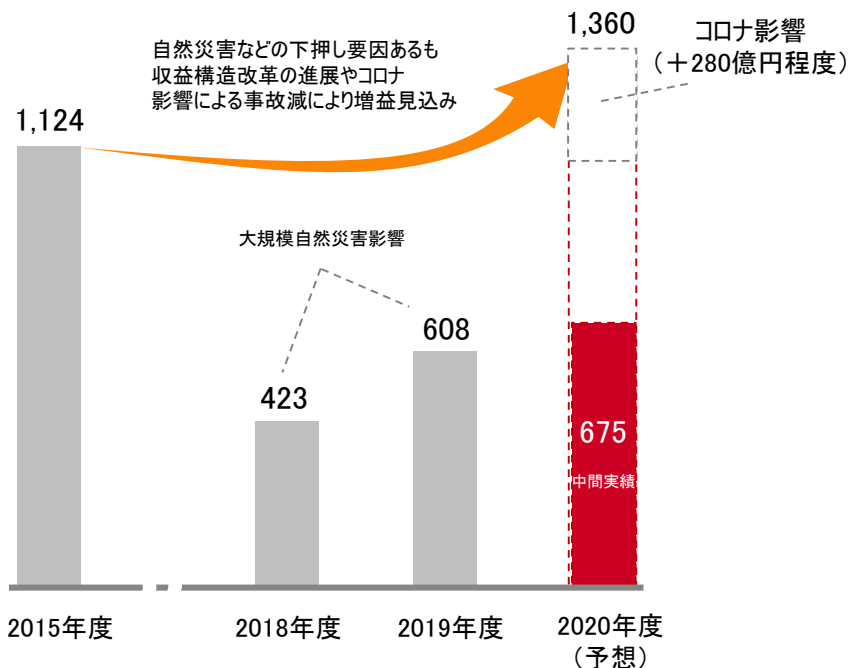
3. 参考資料

# 国内損保事業の計画進捗

◆ 収益構造改革の進展に加え、コロナ影響による交通量減少などもあり、2020年度修正利益は増益の見込み

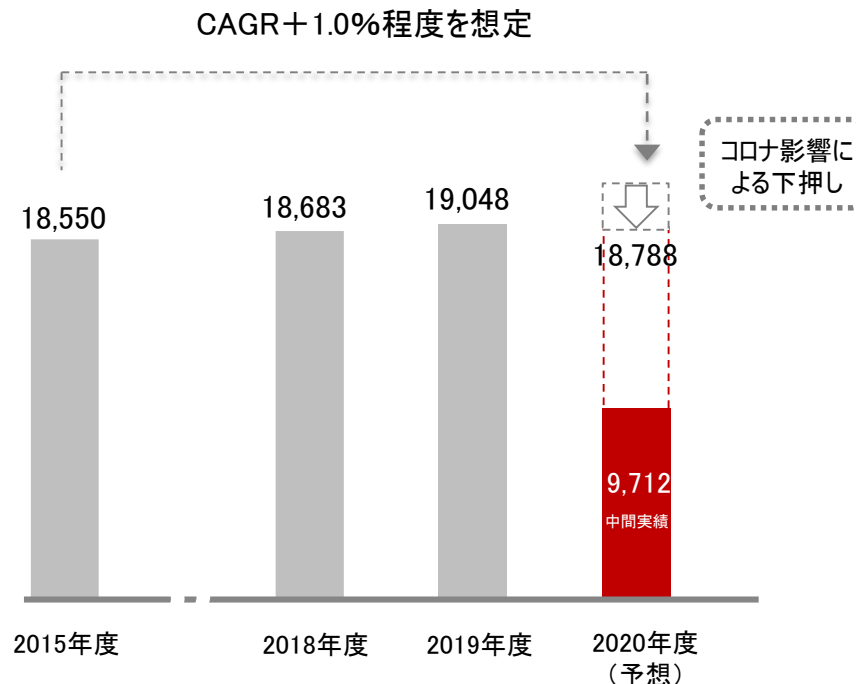
## 修正利益計画

(億円)



## 正味収入保険料(損保ジャパン)※

(億円)



※ 海外グループ会社へ段階的に移管した受再契約分を補正して表示  
移管対象額(約600億円)のうち各期の未移管分を控除  
除く自賠償・家計地震

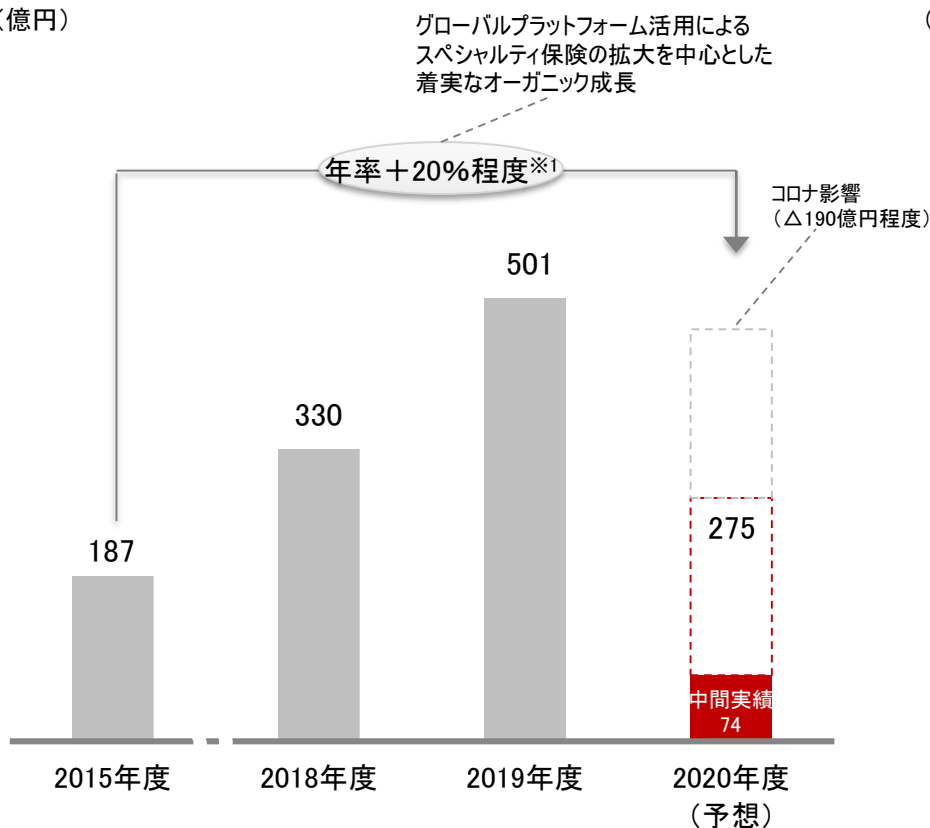


# 海外保険事業の計画進捗

- ◆ コロナ影響や自然災害影響などもあり、2020年度の修正利益は減益
- ◆ スペシャルティ保険の拡大を中心とした着実なオーガニック成長により、トップラインを拡大

## 修正利益計画

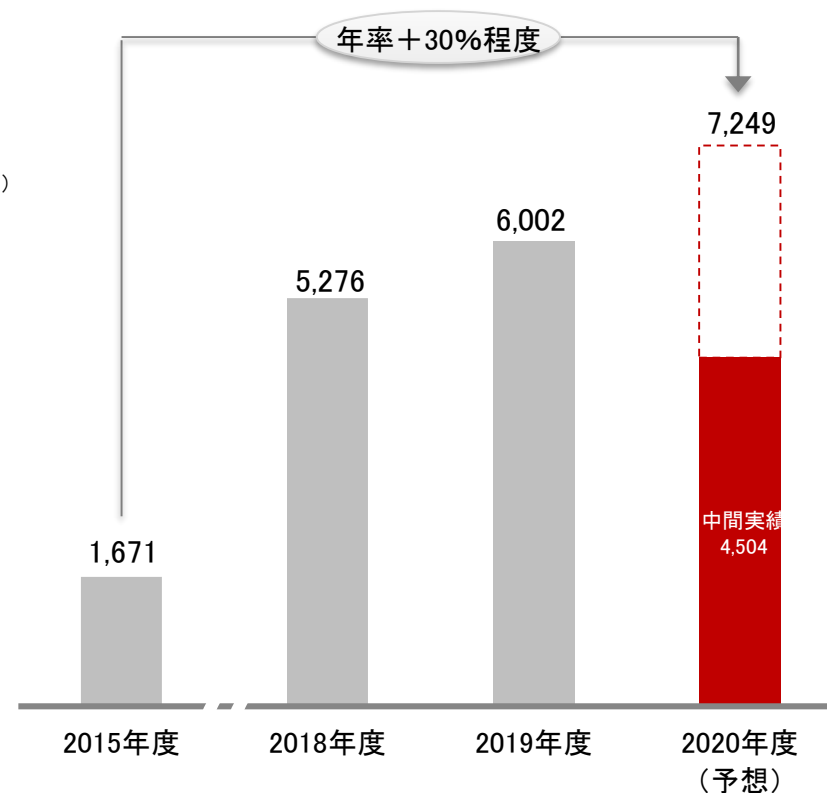
(億円)



※1 除くコロナ影響

## 収入保険料※2

(億円)

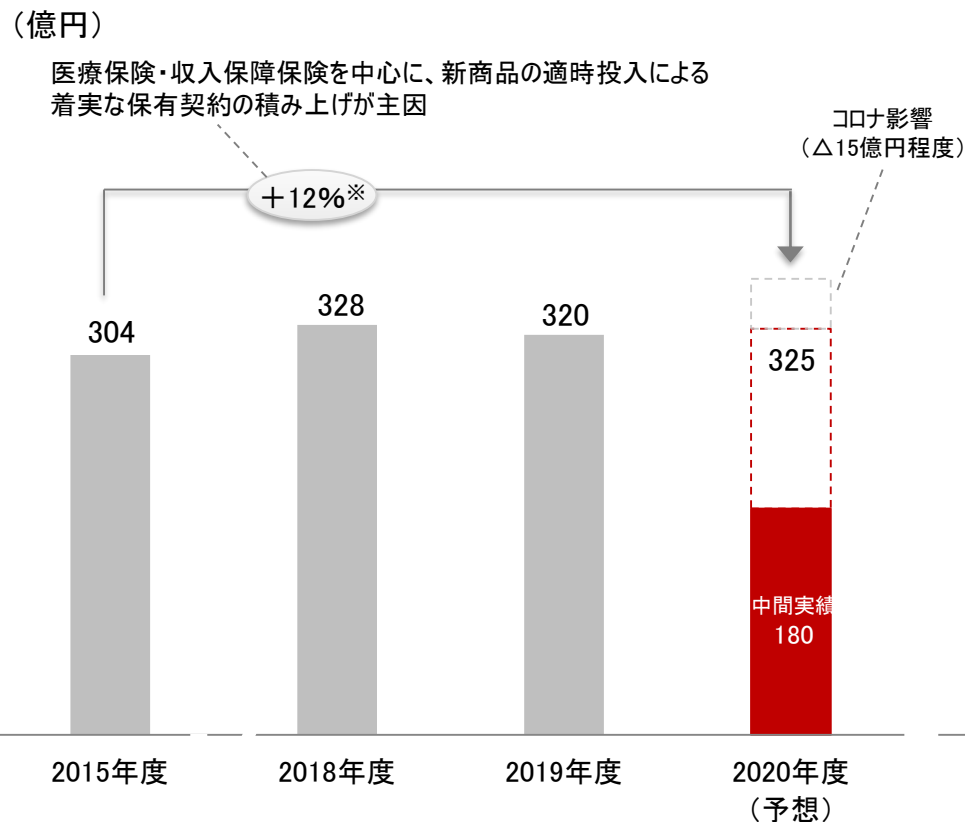


※2 収入保険料は、売却が完了したSompoキャノピアス分を控除  
また、持分割合を反映した数値を記載しており、連結財務諸表とは基準が異なる

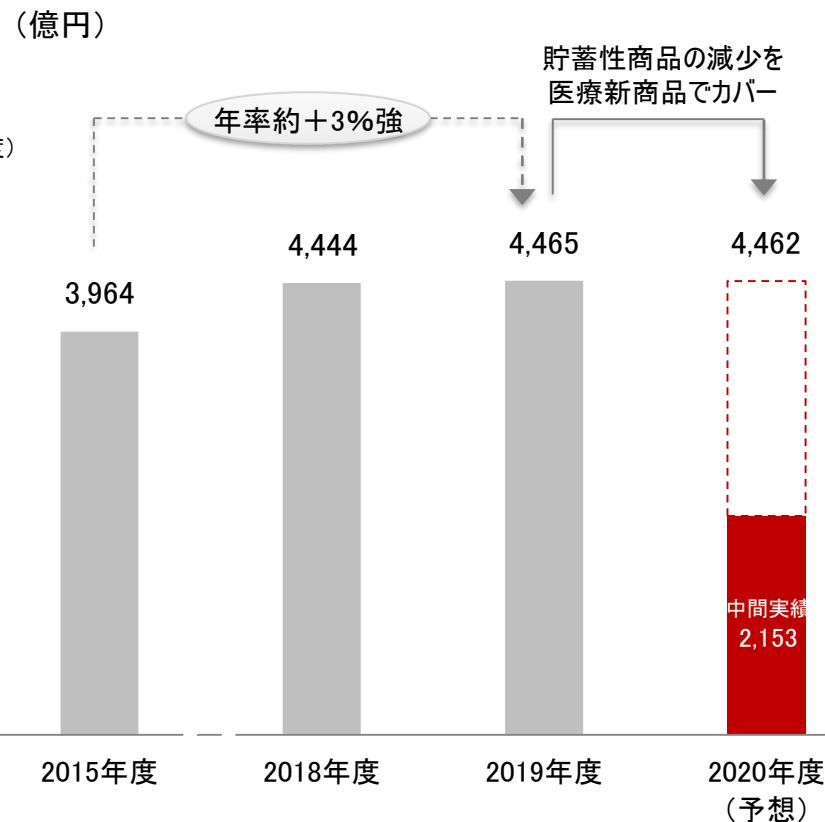
# 国内生保事業の計画進捗

- ◆ 保障性商品を中心とした保有契約の着実な積み上げにより、コロナ禍においても安定した利益を確保
- ◆ 新医療保険発売により好調なInsurhealth(商品+サービス)の拡大を加速し、さらなる成長を目指す

## 修正利益計画



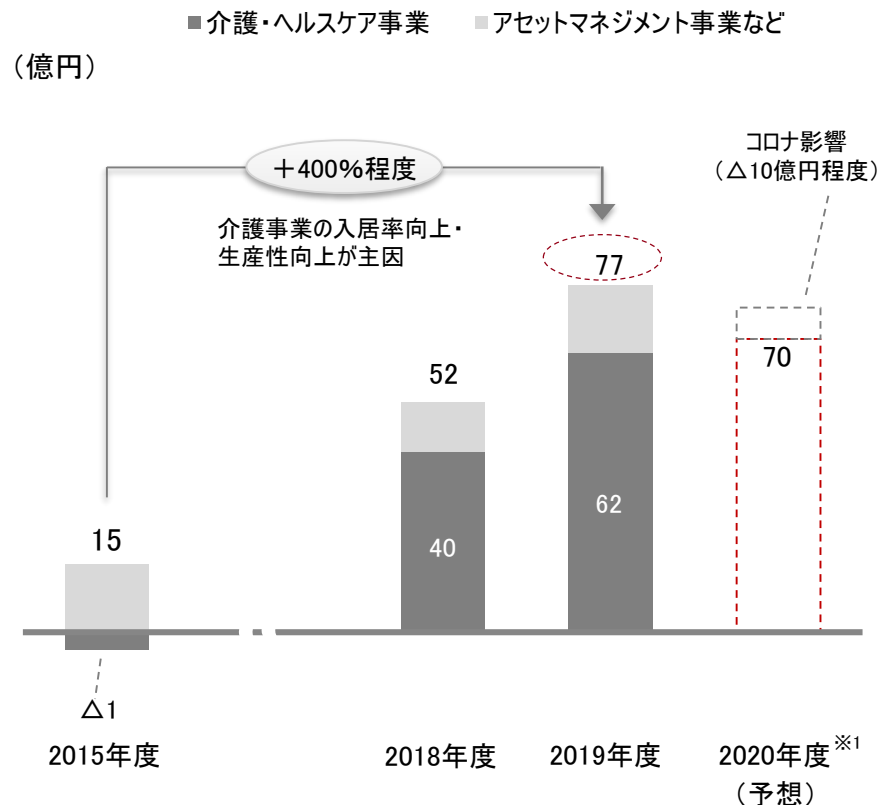
## 保険料等収入



# 介護・ヘルスケア事業等の計画進捗

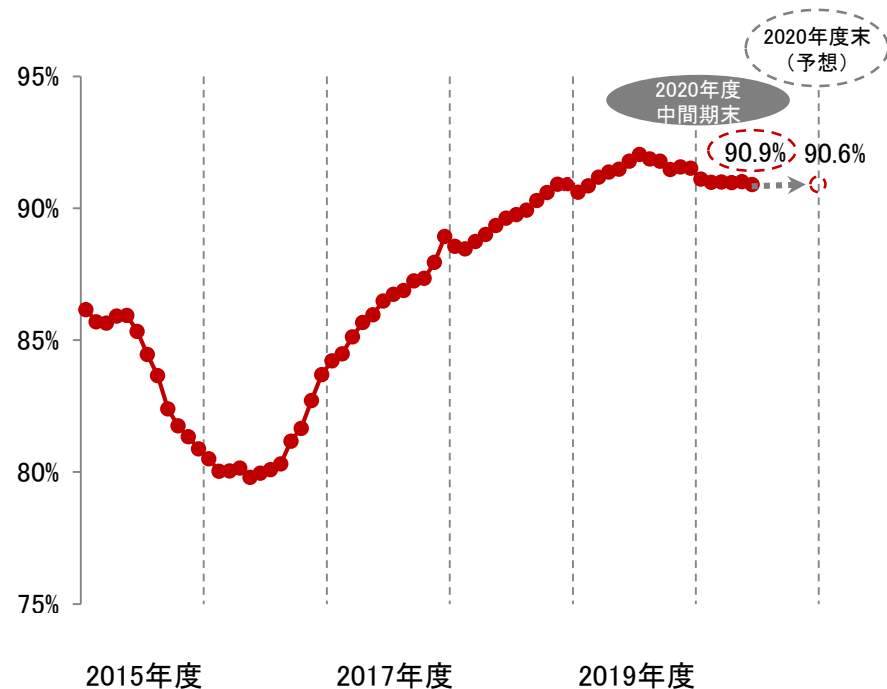
- ◆ 入居率はコロナ影響があるものの高水準で安定、今後は生産性向上を中心とした収益性向上フェーズへ
- ◆ コロナ対策コストで一定の利益影響はあるものの、サービス品質をさらに強化し、事業基盤安定化を図る

## 修正利益計画



※1 2020年度中間実績は18億円

## 入居率※2の推移



※2 旧SOMPOケア・旧SOMPOケアネクストの入居率を統合して記載

# 経営数値目標等

## 計画数値

(単位: 億円)	2019年度	2020年度	
	(実績)	(中間実績)	(今回予想)
国内損保事業	608	675	1,360
海外保険事業	501	74	275
国内生保事業	320	180	325
介護・ヘルスケア事業等	77	18	70
<b>合計(修正連結利益)</b>	<b>1,508</b>	<b>950</b>	<b>2,000</b>
<b>修正連結ROE※2</b>	<b>6.4%</b>	<b>—</b>	<b>8.5%</b>
ROE(J-GAAPベース)	7.3%	—	8.4%

## 修正連結利益※1の定義

### 国内損保事業

#### 当期純利益

- + 異常危険準備金繰入額等(税引後)
- + 価格変動準備金繰入額(税引後)
- 有価証券の売却損益・評価損(税引後)

### 海外保険事業

当期純利益(主な非連結子会社含む)  
なお、SIのみOperating Income※3

### 国内生保事業

#### 当期純利益

- + 危険準備金繰入額(税引後)
- + 価格変動準備金繰入額(税引後)
- + 責任準備金補正(税引後)
- + 新契約費繰延(税引後)
- 新契約費償却(税引後)

### 介護・ヘルスケア事業等

#### 当期純利益

※1 事業部門別修正利益は、一過性の損益またはグループ会社配当等の特殊要因を除く

※2 修正連結ROE=修正連結利益÷修正連結純資産(分母は、期首・期末の平均残高)

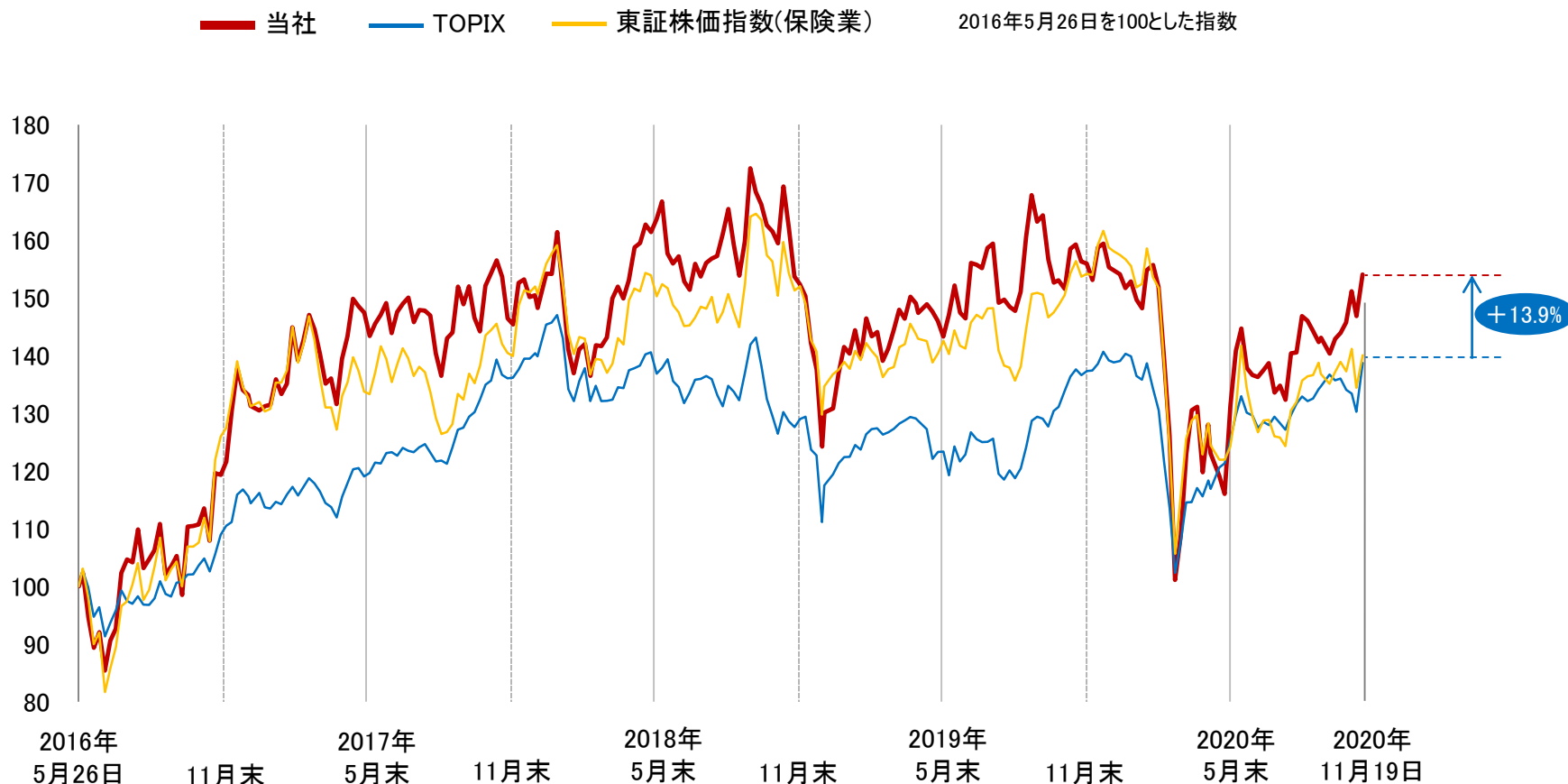
修正連結純資産=連結純資産(除く国内生保事業純資産)+国内損保事業異常危険準備金等(税引後)+国内損保事業価格変動準備金(税引後)+国内生保事業修正純資産  
国内生保事業修正純資産=国内生保事業純資産(J-GAAP)+危険準備金(税引後)+価格変動準備金(税引後)+責任準備金補正(税引後)+未償却新契約費(税引後)

※3 SIのOperating Income=当期純利益-為替損益-有価証券売却・評価損益-減損損失など

# 株価(トータル・シェアホルダー・リターン)

◆ 中期経営計画公表日(2016年5月26日)以降、トータル・シェアホルダー・リターンはTOPIX対比堅調に推移

## トータル・シェアホルダー・リターンの推移(2016年5月26日～2020年11月19日)

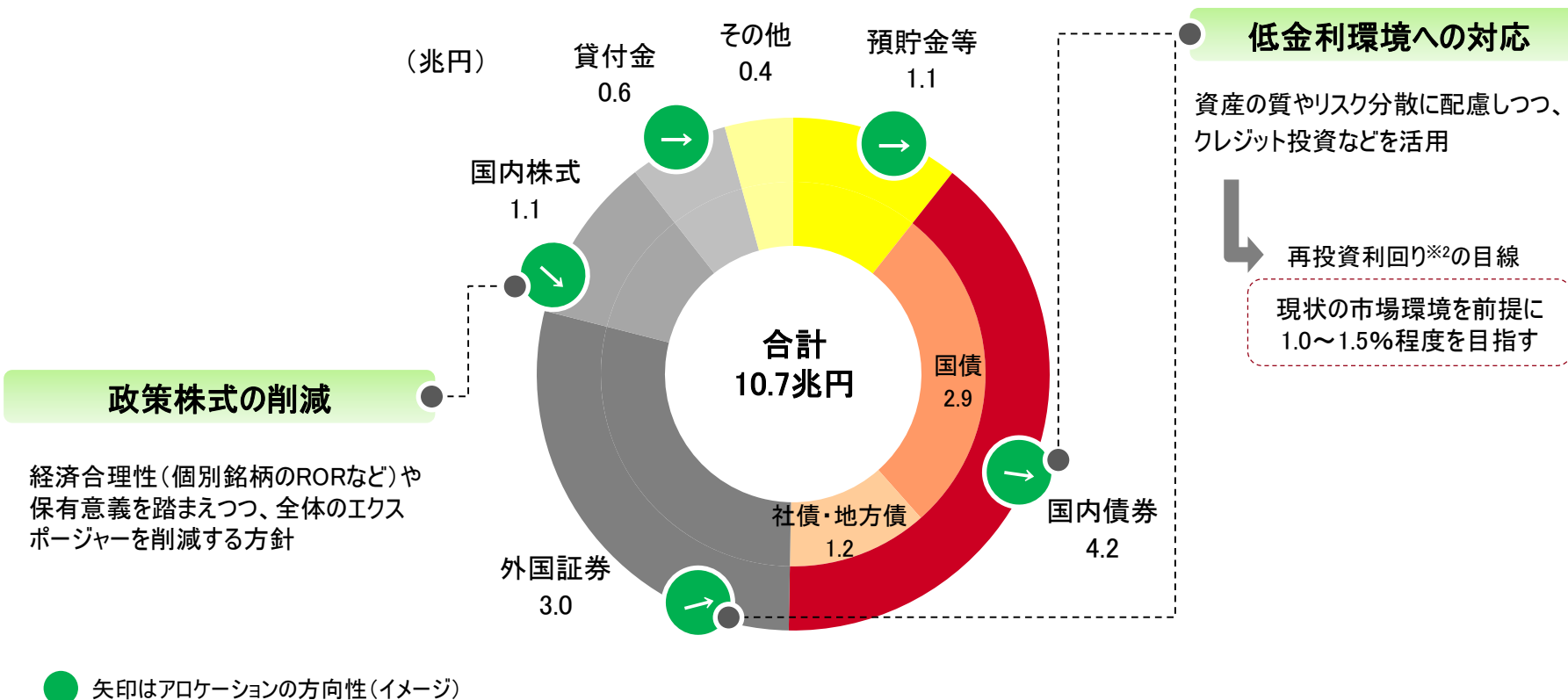


※ 当社株のトータル・シェアホルダー・リターン(=税引前配当金再投資後収益率)をインデックス化して表示

# グループ資産運用

- ◆ これまでどおり、流動性・安全性などを十分に勘案の上、安定的な資産運用を行う方針
- ◆ 「政策株式の削減」および「運用手法の多様化などによる利回り向上」を引き続き目指す

## グループ資産残高※<sup>1</sup>と資産運用の方針

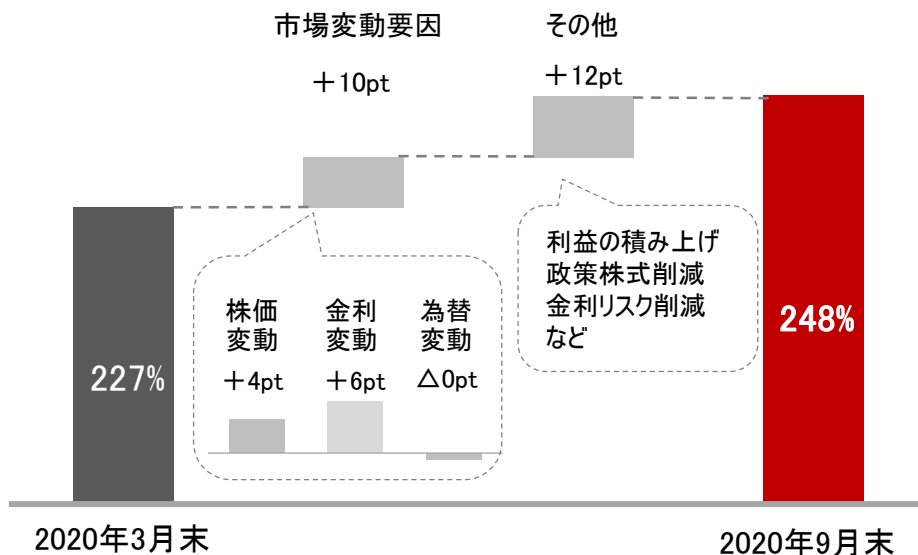


※<sup>1</sup> 2020年9月末、グループ連結ベース(単位:兆円)  
 ※<sup>2</sup> 損保ジャパンの一般勘定・円金利資産などが対象

# 財務健全性: ESR(99.5%VaR)

◆ 2020年9月末のESR(99.5%VaR)は248%と、ターゲットレンジ内の資本水準を維持

## ESR(99.5%VaR)<sup>※1</sup>の推移



※1 ソルベンシー II に準拠した算出方法

ESR(99.5%VaR)におけるターゲット資本水準は、概ね180%~250%

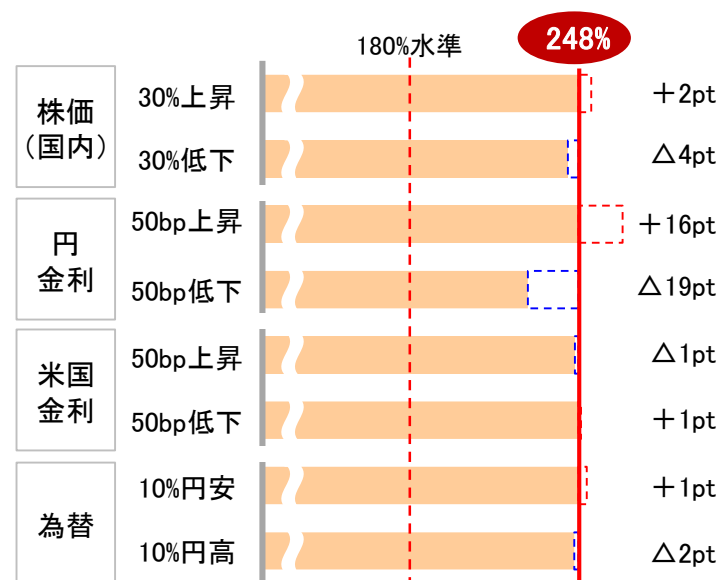
250%水準: 資本効率(ROE)の観点を踏まえた水準

180%水準: ストレステストの結果などを踏まえ、  
財務健全性を安定的に確保可能な水準

恒常的にターゲットレンジ外の水準となる場合の代表的な対応

- 【250%超】 追加的リスクテイク(成長投資)の検討、自己株式取得等による株主還元拡充など
- 【180%未満】 各種リスク削減策の実施、ハイブリッド債等による資本増強の検討、内部留保強化など

## ESR(99.5%VaR)の感応度分析



(参考)市場環境

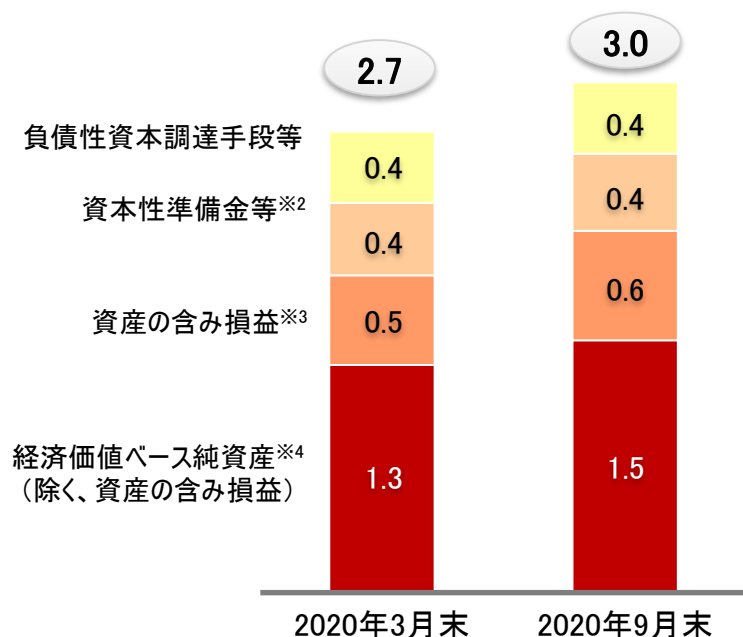
	2020年9月末	(増減 <sup>※2</sup> )
国内株価(日経平均株価)	23,185円	(+22.6%)
国内金利(30年物国債利回り)	0.60%	(+17bp)
米国金利(10年物国債利回り)	0.68%	(+1bp)
為替(米ドル円レート)	105.80円	(Δ2.8%)

※2 2020年3月末対比

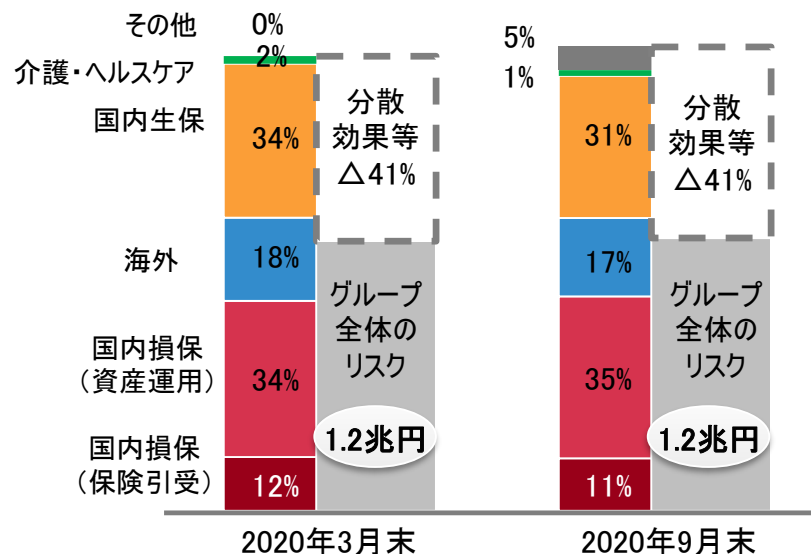
# 実質自己資本・リスク量のブレイクダウン

## 実質自己資本※1

(兆円)



## リスク量※5



※1 実質自己資本＝単体BS純資産合計額＋保有契約価値－のれん等＋時価評価しない資産の含み損益＋資本性準備金等＋負債性資本調達手段等

※2 価格変動準備金、異常危険準備金など(税引後)

※3 時価評価しない資産を含めた有価証券等の含み損益

※4 単体BS純資産合計額に生損保の保有契約価値などを加算(のれんや非支配株主持分等は控除)

※5 リスク量は保有期間1年、99.5%VaRで計測

事業毎のリスク量：事業間のリスク分散効果控除前(税引前)

グループ全体のリスク：事業毎のリスク量合計－分散効果－税効果



## 業績ハイライト(2020年度中間期)

【再掲】2020年11月19日公表資料

- ◆ 損保ジャパンの損害率低下を主因に、中間期の連結経常利益は増益
- ◆ 精緻化した新型コロナウイルス影響などを反映の上、通期業績予想を修正、連結経常利益は2,230億円、連結純利益は1,400億円を見込む
- ◆ 今期業績に対する株主還元については、一株当たり配当金を170円(前年比+20円)に上方修正

## 中間期実績

- 損保ジャパンは、外出自粛を背景とした自動車保険の損害率低下を主因に、保険引受利益は増益  
-自動車保険のE/I損害率は前年同期比△7.9pt低下、事故受付件数も同△19.3%  
資産運用粗利益は△243億円減益、前年度の金利低下局面で債券を売却した影響の剥落などが主因
- 海外保険事業の修正利益は△202億円減益、  
トップラインは順調に拡大した一方で、SIの新型コロナウイルス関連の備金計上や利配収入減が主因
- 国内生保事業は、新型コロナウイルス影響を受けるも、2020年7-9月期の新契約は持ち直し
- 介護事業は、新型コロナウイルスに伴う現場職員への特別手当支給などがあるも、経常利益は増益

## 通期業績予想の修正

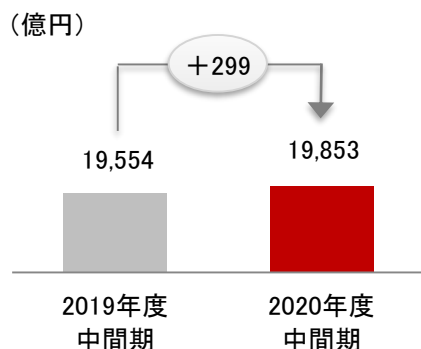
- 精緻化した新型コロナウイルス影響や海外自然災害の発生状況を踏まえ調整  
連結経常利益は2,230億円(期初予想比変わらず)、連結純利益は1,400億円(期初予想比△100億円)
- 2020年度通期業績予想(今回予想)における新型コロナウイルス影響は△80億円を見込む
- 株主還元原資となる修正連結利益は2,000億円を見込む  
今期業績に対する株主還元については、一株当たり配当金を170円(前年比+20円)に上方修正

## 2020年度中間決算概況(連結)

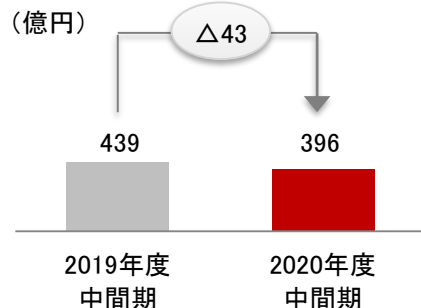
【再掲】2020年11月19日公表資料

- ◆ SIの増収が寄与し、正味収入保険料は+664億円の増収
- ◆ 損保ジャパンの増益を主因に連結経常利益は増益

## 連結経常収益



## 連結純利益



(単位:億円)	2019年度 中間期	2020年度 中間期	増減	2020年度 (今回予想)
連結経常収益	19,554	19,853	+299 (+1.5%)	-
正味収入保険料	15,024	15,688	+664 (+4.4%)	28,840
生命保険料	1,729	1,688	△41 (△2.4%)	3,500
連結経常利益	637	775	+137	2,230
損保ジャパン	333	644	+310	2,200
海外グループ会社	588	173	△414	442
ひまわり生命	143	170	+26	255
介護・ヘルスケア※1	40	51	+10	77
その他・連結調整等※2	△469	△265	+204	△744
連結純利益※3	439	396	△43	1,400
損保ジャパン	249	459	+209	1,600
海外グループ会社	492	64	△428	303
ひまわり生命	94	119	+24	175
介護・ヘルスケア	23	20	△2	46
その他・連結調整等	△421	△267	+153	△724
(参考)修正連結利益	823	950	+126	2,000
国内損保事業	344	675	+331	1,360
海外保険事業	277	74	△202	275
国内生保事業	171	180	+9	325
介護・ヘルスケア事業等	29	18	△10	70

※1 介護・ヘルスケアは、SOMPOケア、SOMPOヘルスサポートの合計

※2 SOMPOホールディングス設立時に企業結合の会計処理として「パーチェス法」を適用したことによる売却損益等の修正を含む

※3 連結純利益は「親会社株主に帰属する当期純利益」を指す(以下同様)

## ◆ 新型コロナウイルス影響を精緻化し業績予想を修正、連結純利益は1,400億円を見込む

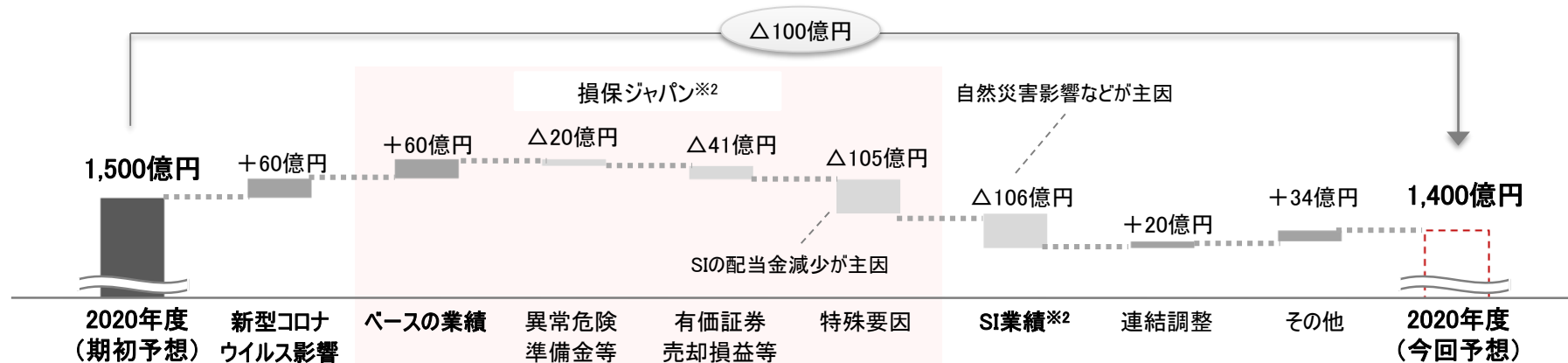
(単位:億円)	2019年度 (実績)①	2020年度			対前年増減 ③-①
		(期初予想)②	(今回予想)③	増減③-②	
正味収入保険料	28,254	28,600	28,840	+240	+585 (+2.1%)
生命保険料	3,560	3,585	3,500	△85	△60 (△1.7%)
連結経常利益	1,924	2,230	2,230	-	+305
損保ジャパン	1,823	2,100	2,200	+100	+376
海外グループ会社	879	601	442	△158	△436
ひまわり生命	255	246	255	+8	△0
介護・ヘルスケア	101	104	77	△27	△24
その他・連結調整等	△1,135	△823	△744	+78	+390
連結純利益	1,225	1,500	1,400	△100	+174 (+14.3%)
損保ジャパン	1,305	1,560	1,600	+40	+294
海外グループ会社	753	489	303	△186	△450
ひまわり生命	165	170	175	+5	+9
介護・ヘルスケア	61	64	46	△17	△15
その他・連結調整等	△1,061	△783	△724	+58	+337
(参考)修正連結利益	1,508	1,870	2,000	+130	+491 (+32.6%)
国内損保事業	608	965	1,360	+395	+751
海外保険事業	501	510	275	△235	△226
国内生保事業	320	325	325	-	+4
介護・ヘルスケア事業等	77	70	70	-	△7

## 2020年度通期業績予想修正のポイント

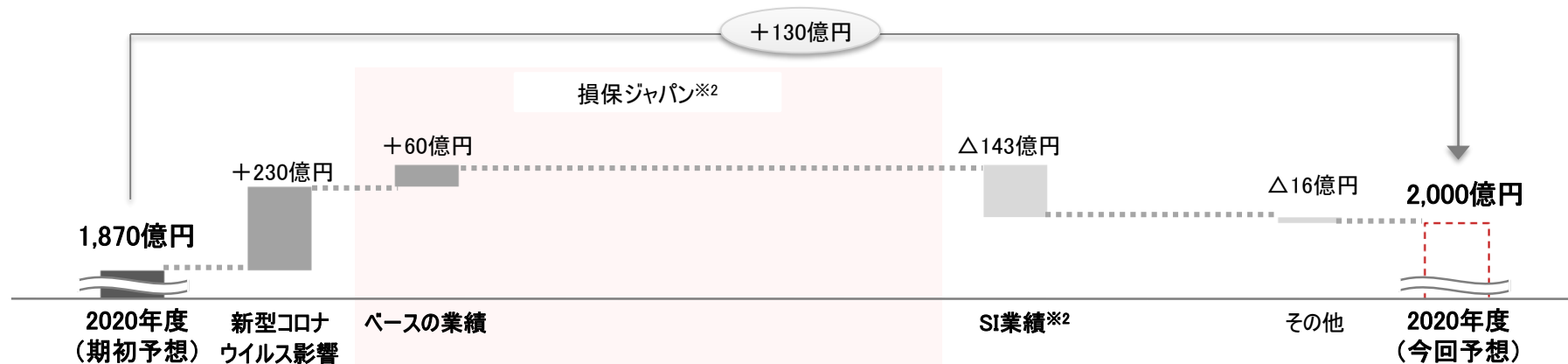
【再掲】2020年11月19日公表資料

- ◆ 新型コロナウイルス影響を精緻化したことなどにより、連結純利益は期初予想比△100億円減益の1,400億円を見込む
- ◆ 株主還元の原資となる修正連結利益は、期初予想比+130億円増益の2,000億円を見込む

## 修正の要因(税引後数値※1): 連結純利益



## (参考)修正の要因(税引後数値※1): 修正連結利益



※1 税引後数値は概算数値を含む ※2 新型コロナウイルス影響を除く

## 将来予想に関する記述について

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

### 【お問い合わせ先】



SOMPOホールディングス株式会社

IR室

電話番号 : 03-3349-3913

email : ir@sompo-hd.com

URL : <https://www.sompo-hd.com/>